

式辞

漆黒の闇の中を、赤々と燃えるたいまつが、駆け巡る、古都奈良・東大寺のお水取りも終わりに近づき、いよいよ本格的な春の到来を感じさせる今日の佳き日。

第66回卒業式を迎えることができました。ご来賓のみな様方には、早朝から、公私何かとご多用の中、ご来臨を賜り、本式典に錦上

花を添えていたただきました
こと、心より御礼申しあげ
ます。

保護者のみな様、お子様
のご卒業おめでとうござい
ます。

ただいま、109名の卒
業生に卒業証書をお渡しし
ました。

3年前に新入生として、
住吉中学校の門をくぐられ
た時には、まだ子ども面
影が抜け切らず、幼かった

お子様が、今こうして
逞しく成長された姿を、目
の当たりにされ、お喜びも
一入の事と、拝察いたしま
す。

3年間、本校教育の推進
に、ご支援・ご協力をいた
だき、誠にありがとうございます
이었습니다。

第68期卒業生のみなさん、
卒業おめでとうございま
す。

私の話を聞いていただくの

も、今日が最後となりま
した。
みなさんとは、一年間では
ありませんでしたが、この任期中
学校で、ともに生活をして
まいりました。

着任した時から、気軽に
声をかけ、温かく迎えてく
れ、親しみを含めて、接し
てくれたことを、今でも、
うれしく思っています。
校長として、みなさんの為
に、何ができたのか、

楽しい学校生活が送れたのか、少々、不安でもありませんが、しかし、明るく元気を君たちを見ていると、自然に元気が湧いてきます。

「光陰矢のごとし」時間の過ぎるのが余りにも早く、「あっ」という間の一年間でした。

保護者のみな様も同じ思いではないでしょうか。

振り返って見れば、長崎への修学旅行は、美しい海

での、ペーロン大会、平和
セレモニー、夜の聞き取り
学習、レクリエーションで
は、ほんのーか月ほどの付
き合いなのに、いきなり私
の物真似を上手にしてくれ
驚きました。

長崎での自由行動は、買
い物・食事、楽しいひと時
を過ごしました。

長崎駅前での蛇踊り体験
は、大阪では、けっして味
わえない体験でした。

修学旅行の中で、何よりも人のやさしさ・暖かさを学んだことが、一番の収穫であつたと思います。

二泊三日の短い旅ではありましたが、心のやさしい生徒が、たくさんいる事に、嬉しさを感じました。

文化祭では、クラス単位で舞台発表を行い、とても素晴らしい出来ばえでした。各クラスがクラスの特徴を

生かし、見る人に感動を与える演技となりました。

当日まで、本当にできるのか、不安でしたが、住吉中学校の伝統、文化を大切にする校風が、見事に開花した、と言っても過言ではありませんでした。

体育大会では、太鼓の音に合わせ学年が一つになり、短い期間ではありましたが、見事に仕上がり、心から感動しました。

生徒と先生の心が通い、
109名の心が一つになり、
すばらしい集団が生まれた
瞬間、自然と涙が溢れそう
になり、会場全体から、惜
しめない拍手が鳴り止ま
せんでした。

保護者のみなさんも、こ
の子たちの成長を、頼もし
く感じられたことと思いま
す。

文化祭・体育大会の中で、
団結することの難しさを、

肌で感じながら、成し遂げたことへの、達成感を味わいました。

その真摯な態度は、すべての人の心を動かしました。

今、みなさんはそれぞれ
の進路に向かって、全速力で走っています。時には孤独感で押し潰されそうになつたり、投げ出したくなつたり、する時もあると思います。

しかし、君たちは決して、

一人ではありません。

困難をともに乗り越えてきた109名の「なかま」がいます。

109名の「なかま」には、
109の「人生」があり、
109の「個性」がある。

そして、109の「やさしさ」があると信じています。

勇気を持って立ち向かってください。

最後に、住吉中学校では

「人にやさしい教育・人に
優しい住中生を育てる」
障害も一つの個性と捉え
「個性の違いを認め、思い
やりの心を育てる」を目標
としました。

やさしさとは、相手の個
性を尊重し、個性の違いを
認めあうことから、生まれ
てくるものだと、思ってい
ます。

君たちひとり一人の、個
性を伸ばすことが、大切だ

と言う事を、新たためて考え
させてくれました。

それでは卒業生のみなさん、お別れのと きが来ま
した。

新しい舞台に立つみなさん
が、青春の一ページを過
ごした、この住吉中学校を、
絶対に忘れないでください。

みなさんが平和な世界の
担い手として活躍されるこ
とを、

そして、みなさんの未来が、

輝かしく、幸多いことを
心より祈念して、式辞と
いたします。

2015年3月12日

大阪市立住吉中学校

校長 村瀬香織